

会 議 録

令和元年 11月 27日作成

会議名	第5回木更津市民会館整備検討委員会		
開催日	令和元年 11月 12日 (火)	場 所	駅前庁舎 8階 防災室・会議室
時 間	午後 2時 00分～午後 4時 20分		
出席者	委員：倉田直道委員、古橋 祐委員、伊藤裕夫委員、石村比呂美委員、宮崎恵子委員 土居和幸委員、地曳文利委員、渡部史朗委員、岩埜伸二委員 事務局：総務部 伊藤次長 総務課) 曾田課長、安田副主幹、河名主任主事 管財課) 勝畑参事兼課長、岡田参事、平本主幹、廣田主査 (株)シアターワークショップ 伊藤代表取締役、佐藤氏、古川氏、伊藤氏 【木更津市中規模ホール整備基本計画策定業務受託者】		
議 題	1 市民ワークショップ結果について 2 第4回委員会議事内容の確認について 3 施設構成及び規模について 4 施設配置について		
公開・非公開の別	議題 1～4 公開		
傍聴者数	1人		
配付資料	○会議次第 ○資料 1 市民ワークショップ結果 ○資料 2 第4回委員会議事内容の確認 ○資料 3 施設構成及び規模について ○資料 4 施設配置の検討②		
会議概要	別紙のとおり		

○司会

本日は皆様お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

ではまず初めに、配布資料のご確認をお願いいたします。

【配布資料確認】

よろしいでしょうか。

なお本日の会議は公開で行います。

会議の傍聴希望される方がおりますので、ここで、傍聴人の方に入ってください。

【傍聴人入場】

ただいまから第5回木更津市民会館整備検討委員会を開催いたします。

ここで会議の定足数についてご報告させていただきます。

附属機関設置条例第6条第2項の規定によりまして、会議は委員の半数以上の出席がなければ開くことができないとなっております。

本日、松井委員より欠席の連絡を受けておりますが、全10名中9名のご出席をいただいておりますので、委員会は成立することを報告させていただきます。

なお、本日の委員会につきましては、会議録作成のため会議内容を録音させていただきますのであらかじめご了承ください。

また、発言の際は、お手元のマイクのボタンを押し発言後は、もう一度ボタン押してマイクをオフにさせていただきますようお願いいたします。

それでは初めに倉田委員長よりご挨拶をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【倉田委員長あいさつ】

○司会

それでは早速議事に入りたいと思っております。

附属機関設置条例第6条第1項に、委員長が会議の議長になるとございますので、ここからの議事進行につきましては、倉田委員長にお願いしたいと思います。

なお通常であれば、議長席をお作りして、そちらで議事を進めていただくのですが、会議の進行の都合上、席をお作りすることができませんので、本日は自席にて進行をお願いしたいと思います。

では、倉田委員長よろしくお願いいたします。

○倉田委員長

それでは議事を進めさせていただきたいと思っておりますが、議題に入る前に連絡事項ですが、発言される前に、挙手をお願いいたします。

本日の議題は4件となっております。

まず、議題1「市民ワークショップ結果について」事務局よりご説明をお願いいたします。

○事務局

この後の議事の議題の進め方ですが、議題全てにおいて関連がございますので、議題1から4をまとめてご説明させていただき、そのあと一括で質疑応答を行わせていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

それではシアターワークショップより説明いたします。

○シアターワークショップ

【議題1から4を説明】

○倉田委員長

ただいまご説明いただいた議題1から4まで、特に分けてご議論いただくという形をとらず、どこからでも結構ですので、ご意見ご質問ございましたら、よろしくお願いいたします。

○宮崎委員

資料にあるメインホールや創作交流ゾーンなどの高さがわからないのですが、建物自体は何階建てでしょうか。

○シアターワークショップ

ホール部分は一層で、客席やホワイエは2層になります。

また、創作部門の例えば練習室などは、2階建てを想定しております。

配置すると、平面的にこのくらいの大きさになるということです。

○宮崎委員

私は台風、大雨の時のことを考えると、2階より3階の高い建物を造って、万が一の時に、貝渕などの周辺のお年寄りの方が避難できるようにして欲しいと思います。避難所である二中まで行けないと言っておりますので。

だからそこが高い建物があれば、上に避難すればそれで済むと思うのです。

だから、災害の時にどうするかっていうところも含めて、ビルの高さをちょっと考えていただけたらいいかなと思います。

そこに、軽く料理ができるような、例えば公民館の料理教室の部屋とか、そういう施設をちょっと入れてもらって、万が一何かあった時には、この周辺の人たちが、二中までいなくても、そこで助かるような、そういう手だてを作ってもらえないかなと思っているのですけれども、どうなのでしょう。

○シアターワークショップ

建物に関しては、建物そのもの、3階にするという話もありますし、1階レベルそのものをある程度上げるという考え方もあると思うのですが、その辺は今後検討していくことかなと考えています。

○倉田委員長

いずれにしても災害の対応というのは、この立地、この場所、敷地から見て、考えておかなきゃいけない場所じゃないかなと思います。

○宮崎委員

メインホールとか多目的ホールの具体的な中身の検討というか、例えば舞台をどのぐらいで、楽屋をどのぐらい、高さをどのぐらいとか、キャパがどのぐらいとか、そういう話はどこかで議題に載るのでしょうか。

○事務局

具体的には、今後の設計の中できちんと進めていかなければいけないと思っておりますが、前回ある程度の大きさを示しています。

700名ぐらいが収容できるような大きさを今後検討していきましょうということですが、具体的な舞台の広さや大きさなどは、今後設計の中できちんとやりたいと思っております。

○宮崎委員

私は木更津市の文化協会から出てきている人間で、舞台を使うときに十分な広さのものを作って欲しく、それを設計の中にきちんと入れて欲しいと思って来ている部分があるので、少しわかるようにしていただけたらと思います。

○事務局

第3回の資料の中にホールの想定される舞台の大きさというものをある程度お示ししています。

ですから、こういったものを参考にしながら、実際の設計の中でいろいろ検討を進めなければいけないというふうに考えております。

○宮崎委員

ではぜひそのところ、よろしくをお願いします。

○倉田委員長

ある程度はコミュニティといったところで、当然舞台の大きさというのも決まってくると思うので、おそらく設計の段階になればきちんと、問題のないように設計はされると思います。

その前にどういう使い方をしたいか、何をそこでやりたいかっていうことが結構大きく、それによって舞台も変わってきます。

例えば、音楽が主なのか、芝居が主なのかっていうことでも変わってくると思いますし、それをバランスよく両方やりたいというふうに考えるのかということもあるのかなと思います。

○古橋委員

今、どう発言をしていいか考えていたのですが、このワークショップの結果を見ますと、正直言いまして皆さんいろいろな夢を持たれているということはよくわかるのですが、ただ、結果的にこの3グループを合わせてみると、もう本当に何でもできる、なおかつプロもみんな満足するというような

ものになってしまっているわけです。

それはしょうがないのですけれども、例えば料金設定、市民枠は多くという考え方も当然あると思います。

逆にプロの質の高いものを市民に提供したいという考え方になると、市民枠で全部とってしまうと、逆にプロの人たちが使うことができないとかですね。

バランスの問題は、なかなか難しいと思います。

料金設定にしてもですね。あと、例えば収入を得るという意見が出ることは、ある意味でびっくりしたというか、貴重だと思います。ただ、実は前にいろいろと調査をしてみたのですが、運営の参加という意味で、例えば、喫茶店をやる、レストランをやるというところで、ボランティアの方々がかかるとか、他の所でも聞いたことがあり、その方々の意見では、私たちが使うのだから、私たちがその交流プラザみたいな所で飲食をやればいいのかと。

確かにそうなのですが、例えば、何ヶ所も、食中毒が起こったりするなど、やはり、アマチュアの方々の熱意だけではカバーできないものがあると思います。

そうなってくると、やはり、飲食部分は、プロの方にお任せするような形にせざるを得ない。

結局、バランスの問題が結構難しいと思い、今この3チームの案を見ていたら、チームAは割と音楽寄りのことを言っており、チームBは、もっと大きなといいますか、プロよりのものをここで見たいという意見が出てきているということで、今、議長からもお話がありましたが、全体としてここはどういうふうに使われるのかというのを、やはり、皆さんで一つ目標を持っていた方が、後で中途半端なものにならないと思います。

その辺は今皆さんの意見を取り入れながら、どこに着地点を置くべきか考えていかなきゃいけない大きな問題だと思います。

申し訳ありません。ちょっとこの結果から、難しいところを逆に提示されたっていう感じがしています。

○土居委員

まず前提として、中規模ホールは700人が入る規模のものを市は作るということですが、1500人が入る規模のものとは、当然、施設のあり方がちょっと違うのではないのかなと感じます。

ですので、1500人入る規模のものを市民の皆さんに要求されると、がっかりしてしまうでしょうから、9ページに想定規模がございしますが、木更津市の人口等を基に、将来的に1500人の規模というものを広域で造るという前提のもとで、700人の規模にしていますので、その辺は、こういうものが入れば3番、それよりもっと交流部門を増やしたいということなら4番、5番などと議論し、この委員会ですこまで決めないと次の設計に入れないのではないかなと思うのですが。

想定として、基本構想で6,000㎡ぐらいですが、6,000㎡よりもっと大きなものを造って、市民の交流部門とか創造部門というのを大きくしないといけないなど、この委員会で話をした上で6,400㎡か6,900㎡にするということをそろそろ話し合い、次がもう運営方法などの話になりますので、規模をある程度決めないと設計にも入れないと思います。

ただ、宮崎委員おっしゃる通り、舞台の広さというのは重要だと思います。

700人が鑑賞する舞台の広さなのだと思うのですよね。

その辺は、この委員会ですっかり理解をして進めないといけないところで、1500人入る規模の舞台が必要かどうかということではないじゃないですか。

あくまでも中規模ホールということでご理解をいただきながら話を進めていかないと、規模が決まらないと思うのですが。

○伊藤委員

スケジュールを見ますと次回が運営計画になっています。

実際にどのような使い方をするかというのは管理・規模の問題も含めて重要ですが、まず規模が想定されてくると、当然そこでできるものもある程度制限がかかってきます。

そしてもう一つは、多分、今まで出て来なかった話ですが、ランニングコストの問題、つまり、会館し、どれくらい費用をかけて運営していくのかという問題。

人件費も含め、運営にあたってのスタッフの数も含めてイメージしていかないとなかなかこの辺

は掴んでいくことは難しいのではないかと思います。

そういう意味で、今日の議論がどうしても中途半端な感じになってしまうのですが、まず施設構成に関して言うと、今までのまとめという形になってきていると思いますが、最初にありましたように、大ホールの方は複数の市で一緒になって造っていく形を前提にして、あくまで中規模ということを経験的に考えていきますと、ここに書かれているような内容がベースになってくるとと思いますが、実際に前回の議事でも、メインホールに関して言うと、稼動にするか固定にするかというのは何を行うかによって変わってくるというのが議事録にも残っています。

本当に何を行うかということ、次回少し議論しないと何とも言いがたいなという感じがしています。

その上で、メインホールと多目的ホールの役割分担というのは、何回も議論になっていますけども、もう一度確認する必要があると思います。

メインホールの方は、一つは鑑賞という要素が入ってくるだろうと。

ただ、市民ワークショップで出てきたように、オーケストラやミュージカルなどの大きなものは、ちょっとその規模だと採算効率などが難しいと思います。

しかし演劇なんかを中心にある程度のことはできるので、そういうプロの鑑賞というものがあると思いますが、多分、年間にそんなに大きな数にならないだろうと思います。

やはり、中規模ホールが一番大きな要素というのは、まさに宮崎委員が属しているような文化協会、地元で文化活動をされている方たちの発表の場として使ったり、或いは、中学生・高校生たちの吹奏楽だとかそういったものがメインになってくるだろうなと思います。

そういう規模での使い方を考えていくと、多分、中ホールの方は比較的固定席で、割とよくあるホールのパターンに近いのかなというイメージで今考えています。

それに対して多目的ホールというのは、現在の中ホールの代替というふうに書いてあるのですが、私としては、ここは少し突出したものがいいのではないかなと考えていて、前回、映像編集みたいなものをあげましたが、これから先の文化状況の変化に対応できるようなフレキシブルな要素が必要ではないかなというふうに思っています。

市民の方たちには、この多目的ホールの方が最終的には使いやすいと思いますし、それから何よりも中高生・大学生などの若い人たちが、気楽にここで創造活動ができるよう、創造交流スペースに連携していく形を前提に考えて欲しいと思っています。

ただその他にも、多目的のホールに関して言うと、ここに上がってないのですが、例えばパーティー会場みたいなものに使えるかどうかという問題もあります。

私も少しこの辺はわからないのですが、木更津市内のこの付近周辺に、いわゆるシティーホテル、例えば結婚式のパーティーやレセプションなんかもできるようなものがあるのかないのか。もしあれば、民業圧迫になるので、あまりやらない方がいいと思いますが、少ないようだったら、もっとそういうニーズみたいなものも開発できるのかなという気がしていますので、そういうものもちょっと付け加えたほうがいいのかなと思います。

それからこの施設の構成に関して言うと、後の方にも関連しますが、既存施設の車庫や備蓄倉庫を利用するかしないかという問題は結構大きく、前回も言いましたが、私自身はホールですべて完結することはよくないと思っています。

いわゆる完結型のホールは、そこにもう何でもかんでもいっぱい入っていて、そこに来ればすべてができる。

これは、一頃はデパート、スーパー、或いはホテルなどで流行しましたが、そこで全てができるようになるため、まちを滅ぼすようになってしまいます。

つまり、そこに入ってしまった人達はそこの中で全てが終わってしまい、結局、まちとの連携というものは消えてしまうということがありますので、例えば、絶対必要なものは何で、場所との連携で来た人がそこを拠点にまた周りに広がっていくことを考えて行く必要があると思います。

ウェルネスゾーンとの連携というのが、おそらく一番引かかってくると思いますが、身体を動かしたり、或いは大きな声で発声練習するのはホールではなくたって、むしろ体育館だっていいと思いますので、そのような体育館等の連携みたいなものを想定できないかとか、或いは一番重要なのは、

市場の再整理だと思っていますが、食べ物などは、カフェがあれば十分であって、ちゃんとしたレストランなんかは、もっとまち中にあった方がいいのではないかとか、こんな感じで、少し関連施設を繋いでいくようなツールを考えていくことも必要になってくるのではないかなという気がしています。

そのためには、あまり巨大な施設にする必要はないのではないかなという感じで、6,000 m²未満の方がいいのかなと個人的には感じています。

この辺は設計次第ですから何とも言えませんが。

その辺でまず施設構成のところをもう少しはっきり固めて、次回の運営の方法、それから施設配置の問題等々に還元させる議論をした方がいいのかなと思います。

○古橋委員

議論の趣旨ということで、シアターワークショップさんに質問なのですが、本日、配置パターンが提示されているわけですが、私は普段設計側にいるので、もしこういうふうに取り込むときには、規模だとかそういうものが指定されて、それをもとに計画をするときに、この配置というのとはとても重要な提案要素になります。

どういう配置をするかということによってこの施設の性格を方向づけていくということになるので、ここで今話し合うべきことというのが、この配置計画の1、2、3、4、5、6のどれがいいということなのか、これに対してはこういういろいろなバリエーションがありますよというところで済ませてよいのか、会議の目標といいますか、それを教えていただけますでしょうか。

○シアターワークショップ

今回、この中でどれがいいとかを決めようということは意図していません。

それを最初にお話しなくて申し訳ありませんでした。

今回この色々なパターンがあって、今後どんなことを考慮して検討していく必要があるかということ洗い出す場にできればというのが趣旨です。

こういうふうに配置するとこんな問題が起きてくるとか、実際その配置をすることによってどんな可能性が見えてきたりとか、さらにこんなことも検討すべきではないかとか、そういったご意見をいただければと考えております。

○倉田委員長

委員長としての立場ではないのですが、今、事務局の方からお話があったように、私もここで完全に決めてしまうという段階ではないのではないかと感じています。

と言いますのは、これからやはり設計者を選ぶわけで、設計者を選んで、ある条件のもとで設計をしていただくわけですが、その場合、私は必ずしも建物の中だけではなく、敷地に対してどういうふうに建物を配置するか、敷地をどういうふうに生かすかということも含めて、それは設計者に期待する部分だというように思っています。

ここで決めてしまうということは、先の可能性を全部ここで限定してしまうということにもなります。ですので、ここではできるだけ、こういうことを配慮して欲しいという設計の条件を出すということが大事ではないかなと思っています。

それから、先ほどからの施設構成と規模の話ですが、これは私自身の経験ですけれども、色々な公共施設の設計・計画に関わってきて、必ずしもホールだけではないのですが、やはりどうしても最後は予算的なこともあるので、この規模の中に、どうやったらこれだけの機能を収めるかということは必ず出てきます。その時に、先ほどちょっとお話の中で、面積の話がありましたが、400 m²、500 m²の差というのは、実は設計次第でどうにでもなるというふうに考えています。

コンパクトにした方が、必要とされている機能が上手に入った上で、いい施設になることもあり、それは特に最近、公共施設の場合も特にそうなのですが、スペース、空間の重ね使いというのをどこでも主張されています。

重ね使いということとは、同じスペースを色々な使い方をするという事で、個々のスペースの使い方、いわゆる効率もどんどん良くなりますし、同時に空間の効率的な利用だけではなく、色々な機能をそこで重ねることによって、当初期待してなかった色々な交流が生まれるということが、結果としてあります。

そういう意味で、今回の施設もそのような視点があってもいいと思います。

特に交流というのを非常に大事な視点として持った場合には、やはりを音楽やる人はここだけでというような形ではなく、あるスペースでは音楽の人も利用するし、芝居をやっている人たちも利用する、そういう形になった時に初めて、その音楽の人たちと芝居に興味を持っている人達が重なって、ここで何かの交流が生まれます。それは非常に効果のあることなので、必ずしもここで 6,900 m²がいい、6,500 m²がいいという話はあんまり力を入れて行わなくてもいいのではないかなという気がして、それよりは、どういう使い方をしたいかということの方が大事で、その議論はもう少ししておいた方がいいかなと思っています。

スペースについては、そういう工夫をすることで、設計次第なのですが、そういうふうになるだろうと思います。

あと、そうした時に、活動次第なのですが、配置の問題という議論が、これから少しあるかもしれませんが、私自身は先ほど申し上げたように、建物は建物、広場は広場というのではなくて、それを一体の環境としてとらえて、そこをどういうふうに上手に利用できるか、市民が期待しているような形で利用できるかということを考えるべきだと思います。

その時に、建物と広場の関係は、すごく大事になってくると思いますし、建物と広場を同時に利用するというようなことも可能になってくるのではないかなと思います。

ですので、あまり規模にこだわる必要はなく、どちらかというとも規模というのは予算的なところで決まってくることの方が、今までのケースでいくと多かったです。

それを逆にあまり縛り過ぎちゃうと、色々な可能性を無くしてしまうので、ここでは幾つかの設計・配置にあたって配慮して欲しいことをきちんと洗い出していくことが大事ではないかなという気がしています。

○古橋委員

設計する立場で言うと、具体的に皆さんが今どういうふうに頭の中で夢を描いてらっしゃるかということだと思うのですが、例えば、交流部門で市民交流スペースが 100 m²とありますよね。

実はこの 100 m²は、この部屋の半分ちょっとしかないはずですよ。

それが市民交流ラウンジといえるかどうかということですよ。

なので、この数字というのは、実は我々が考え、もしこれを計画するとしたら、例えば、交流スペースと情報スペースと子供スペースの 3 つで 250 m²あると考えるわけです。

つまり、100 m²でここは何ですよとしたら、もうこのくらいしか取れないけれども、三つ合わせれば 250 m²になる。

極端に言うと、飲食スペースも入れてしまえば 300 m²になるというところだったら、普通図書館は飲食禁止ですが、図書スペースを飲食ができるようにすれば 300 m²使えるというような頭の使い方をしていかないと、皆さんが思っているようなものというのは実現できないと思います。

例えば、畳スペースを飲食可能にしたら和風の喫茶ができるのでは、みたいなことを考えていくことで、全体のイメージを作っていくのであり、その数字というのは、正直言ってこのまま造れと言われても無理なのです。

どうしても広がって行きます。重ねていったら広がって行きます。

それをどうやって作っていくかということは、逆に言えば、皆さんがこの建物に対してどういう使うイメージを持ってらっしゃるかということだと思います。

はっきり言って 700 人のホールで、「嵐」が来るかというのは、絶対無理ですよ。どんなことがあってもありえない話になるわけです。

だとすると、やはり、自ずと 700 席でできるものというのは決まってきます。

先ほど宮崎委員からもあったように、いわゆるイロモノといいますか、演出が入るようなものをどうしてもここでやりたいという方が多かったら、やはり、それなりの舞台の機構やスペースは確保すべきだと思います。ただしそこには当然ながらお金がかかります。

そうすると、実は間口に対する収容人数というのは、実は割と自動的に決まるわけです。

立派な舞台で、1,000 人レベルのものがあって、そこに 100 人のお客ということではなく、それは逆にアンバランスになります。

なので、ここでできるもの、皆さんがここでやりたいもの、見たいものというものは、自ずと決まってきたのではないかというふうに思います。

皆さんがここでこういうことをやるという頭の中のイメージが重なっていくと、自ずと全体の規模も決まってくるということになると思います。

○倉田委員長

今、施設構成・規模の話と配置の話が出てきてはいますが、先ほどからお話がありましたように、施設構成やどういう使い方をするかということについては、もう少し議論した方がいいのではないかと思います。

それは、次回もう少し議論できるということですが、配置のことについても、あくまでもこのどれがいいかというよりは、それぞれの配置を仮にしてみた場合、どういう課題があるかということを考えなければならないということが見えてきますので、議論をしていただくというのも十分あるとは思っています。

○土居委員

基本構想と基本計画の位置付け、すでに方針や理念とか、この部屋の使い勝手というのは、基本構想の方で書かれております。理念についても書かれていますので、建築するときどういう計画づくりをすればいいのかというところの踏み台にするのが基本計画ではないかと考えています。

そうすると、規模についても、ある程度このくらいのものだと想定しないと、建築工事費が決まらないと思います。あくまで概算なのですが。

また、配置にしてもある程度決めないと、設計する時のイメージというのは設計者が、この基本構想、基本計画を十分踏まえて取り組んでいただけるのでしょいうが、計画に沿ってやっていますと言えず、構想と計画の位置付けがきちんとされていないため、構想が二つになってしまうような気がしてならないです。

何度か基本構想や基本計画の策定に携わりましたが、もうちょっと踏み込んだものが欲しいなというところはあるのですが、その辺いかがなんでしょうか。

今、色々お話をいただいて、なるほどと思いつつも、計画として盛り込めるのかなというところが不安なのですが。

○倉田委員長

私も色々な公共施設の計画に関わってきて、そういうことから言いますと、設計の前提になる計画というのは大体つくりましますし、もっと踏み込んで言うと、ある程度の工期、構成機能に対しての面積とかそういうものも一応入れます。

しかし、それは、必ずしも100%縛るものではないと思います。

ただ、敷地については、今回の場合、意外と恵まれています。

そういう意味でいくと、恵まれているということで色々な可能性も持っていて、どういう形で設計者を選ぶかということにもよりますが、私がこれまで関わってきた多くの公共施設はプロポーザルというような形で提案を求め、その中から選ぶということをしてはいますが、その場合に、かなり敷地に対しての使い方の条件についていろいろ設定しますけれども、具体的に建物をこういうふうな形で配置しろというところまではしていないケースが多く、それも含めた提案を求めています。

そうすることにより、非常に魅力的な提案が出てくることもあります。

特に今回、いろいろ拝見していて、この敷地をどういうふうにとらえるかというのが、すごく大事なところで、私はどちらかという周辺のマチにどういう繋がりを持つかということがすごく気になっています。

この敷地の中だけで考えるというよりは、特に今回の場合は、将来的に木更津市においてウォーターフロントの繋がりというふうな、この敷地の外が、今後、開発整備されていくかというのはすごく気になることです。

ウォーターフロントのプロジェクトと繋がった時に、この施設が色々な形で利用されるということになるだろうというふうに思っていますので、そういうことでいうと、意外とウォーターフロント側からのアプローチというのも、将来的に考えて大事ではないかと思っています。

それが繋がることによって、今回の中規模ホールの整備が、ウォーターフロントの方にプラスの影

響も与えるのではないか。

特に、近くに市場の再整備もありますので、私はそれをイメージしただけですごく魅力的なウォーターフロントになり、色々な選択肢が出てくると考えます。

ウォーターフロントについても、その中に文化的な施設が入ってくるというのも非常にいいと思います。そうすると、普通は道路からのアプローチが考えられますが、実は向こうからのアプローチも考えないと、建物は完全に裏になるというようなもったいない施設配置になってしまうと思いますし、まして、そのウォーターフロントが全然感じられないような施設整備だと意味がないのではないかというふうに思います。

例えば、そういうのが、今日挙がっている事例のいくつかのパターンの中にもあって、ホールがどちらかという閉じた形になってしまう。

それに対して、市民が利用する部分、交流創作部門というのは、施設としても外に対してオープンな作りになる。

そうすると、水辺の方にそういう施設が来るという選択肢もあるのではないかというふうに思ったりするわけです。

それは最終的に、そういう条件を受けて設計者がどういうふうに敷地を使うかということになると思うのですが。

そういう意味で、敷地を今ここで完全に決めちゃうというのはもったいないと思います。

ただ、やはり施設、敷地、配置を考えるとときに、どういうことに配慮して欲しいかということはきちんと出しておかなければならないと思います。

それを計画レベルで出すということは非常に大事なことであり、おそらく構想段階だとそこまで出せないでしょうが、少し設計の条件としてそういうものをきちんと出しておくというのが大事ではないかと思っています。

○土居委員

まさに委員長おっしゃる通り、市場側との一体の整備も同時期に行いたいというふうに考えております。

市場側も中規模ホール側を睨んだ展開をしてもらいたいですし、中規模ホールも市場を睨んでやりたいなというふうに考えております。

その辺は十分貴重な意見として、その取り組みをさせていただかないといけないと思っております。

○古橋委員

前回欠席し、議事録等を読ませていただいたのですが、今ここで、もし、重要といいますか設計する側から欲しい情報ということとすれば、今、委員長が言われたように、我々が、多分皆さんはここに自動車で来て、駐車場において、そこからどうやったら入場するかということを考えるとと思いますが、設計する側では、車で近くまで来るかもしれませんが、とにかく時間がかかってもここから歩いてみるということをやります。

多分これで質疑を出したら、今の市場の再開発計画はどうなっていますかという質問を必ずさせていただきます。

そういう意味でいうと、実はこの敷地の図面を見させていただいて、設計する立場からすると結構魅力的な場所です。

ある意味でいろいろ行える可能性があります。

やり方によってはものすごく面白い素材だというふうに思いました。

なので、それはそのまま残しといてあげたいというのがあります。

逆に言えば、先ほど伊藤委員からも話があったのですが、今までに、コストの話が1回も出ていなく、先ほどのお話だと、結果的に面積を縛るのはコストになってしまうわけです。

そして、今、メインホールの客席を移動観覧席とし、多目的を平土間にした後も、ホールとしても利用可能な形態も想定してという非常に都合のいい、どちらにでもとれるようなことを書いてあるわけですが、もしこれを条件として提示されたらば、移動観覧席を入れるんだというふうに取りざるを得ないというか、それも入れられるように設計しておくようにしなさいというふうに考えざる

得ません。

ただ、先ほどのお話にもあったように、ここをもっと明確にするのであれば、ここは固定席としてしまうという選択は絶対にあります。多目的ホールを我々がここでどう位置づけるかということだと思います。

しかし、稼動形態を想定してしまったら、当然、平土間になることを前提とした設計をせざるを得ない。

ただそれにはコストがかかります。

はっきり言って相当なコストアップになります。

どちらを取るかという話になってきます。

なので、具体的に皆さんがどうしてもこれだけは残したいという条件を確認していただきたいと思います。

例えば、二層線であれば、極端な話ですが、障害のある人、親子の利用にも配慮するって非常に簡単に書くのですが、二階席に車椅子の席は作るのか作らないのか。

今日本だったら必ずいいところに、車椅子席を作って、ここに来てくださいとしているわけですが、アメリカなどは、二階席であれ三階席であれ、車椅子の方でもそこまで行けなくてはならないとなっています。

非常に設計者としては辛いのですが。

つまり、ある意味平等で、当然ながら上は安いですが、車椅子だからといって高い席を買わされるのは平等ではないというのが、アメリカ的な考えらしく、一番安い席にも必ず車椅子席を作りなさいみたいなことがあり、それはどうかというのが日本人的な感覚なのですが、だとすればこれも配慮するというところも、そこで提案するようなことも一つの考え方です。

皆さんが本当に今回のこのホールに関して、徹底的にその弱者に対して平等な空間を作りなさいという提案をしてみるというのも一つの思想です。

多分日本で他にないでしょうから、今回は徹底的にバリアフリーをやるといような提案もありだと思います。

そこまでやるかどうかは別にして、やはり、ここで皆さんがやりたいことを絞っていかないといけないと思います。

ですので、最初のワークショップの話もそうなのですが、結果的には、ここだけは譲れないというところを明確に出していくこと、これがやはり重要ではないかなというふうに思っています。

先ほどから何度も話があるように、配置計画というのは、ある意味では設計者の腕の見せどころ的なところがあるので、そこは皆さん期待していただいているのではないかと思います。

逆に自分たちが使う場所に関して、これだけは譲れないというところを決める、ここまですべていいのですが、確認していただくということが必要なのではないかなと思っています。

○伊藤委員

もうすでに皆さん言い尽くしたと思うのですが、配置の問題からしますと、最後にある今後の検討に向けてのところある、求められているポイントということが、的を得ているのではないかなと思います。

ウォーターフロントとの関係、それからまちのにぎわい、ウェルネスゾーン、こういったものとの連携を考えていく形で議論されていくとした場合に、当然いえることは、現在挙がっている1から6までの6パターンのうちの1は無いというのがはっきりしてくると思います。

ウォーターフロントの考え方が弱いです。

そういった意味では2でいくのか、もうちょっとウォーターフロントの関係をより強くしたような5みたいなものに持っていくのかということに、多分、議論の余地があるのではないかなと思いますが。

実際にはメインホールと多目的ホールの面積的は、もう固定して考えているのですよね。

1から6まで書いてありますけども、そこはもう固定されております。

従って、あくまで創造部門と交流部門の広さにバリエーションがあって、広いものがあったり、狭いものがあったりするわけですが、そこについては委員長も言っているように、基本的には兼用とい

う考え方がどんどん使えるかどうかと思います。

広場というのは交流ゾーンですよ。

多目的ホールは先ほど言いましたように、創造的なものとの結びつきが非常に強いですし、出されたこの図でいくと、多目的ホールはむしろ創造交流部門と考えていいと思います。

多目的ホールというのは、この図でも創造交流ゾーンに入っているように、いろんな使い方によって、壁をなるべく薄くして、創造の発展とかでも繋がっていく。

従って 300 m²もあるような練習場といいますかスタジオを作る必要はあるかどうか疑問を持ったりするわけですが。

それから、同時に先ほど言いましたように、パーティー会場に使われたりとか、交流会場としても多目的ホールを使いたいのですが、そういう意味で言いますとこの辺は、いろんな使い分けをしたり、或いは各ゾーンの壁をとっていく。

例えば創造部門の方は、ある程度壁ができます。

でも交流部門は、ほとんど壁がない形で作ることが可能だと思いますので、そういう意味では、むやみにこれが必要だからという形で積み上げていって、これが何m²になるという計算の方がおかしいのではないのかなと思います。

そういう意味では、今日できることは、これは無いという部分を少し整理しておいて、あとはどの様に使っていくかということ、次回検討した上で、基本計画の最終案の前に絞れる部分があったら絞ったらいいなという気がしています。

○古橋委員

一つだけ先ほど出ていた災害対策の話ですが、実はちょっと自分で言っておいて逆のこと言っておいて申し訳ないのですが、結局、災害拠点となった時の避難所として使われるということを前提に考えるのであれば、メインホールが平土間というのはあります。

今までの震災でも、ホールが災害の避難所になったという例がありますが、絶対的に使えないのは客席です。

ここでは、幾ら椅子があっても寝られません。

平らなところが欲しいという話にどうしてもなる訳です。

ですので、多目的ホールや和室などは非常に機能しますが、メインホールの一番面積があるところは、実際には全く使えないという状態になりますので、お金がかかっても災害時の対策を行うということであれば、先ほどの移動観覧席っていうのも非常に具体性を持ってきます。

そこは、確かに使い勝手としての話の中に、いわゆる舞台芸術とは別の視点を入れた時に、急に生きてきたりするわけで、その辺は、今の積み上げの中ではどこにもその話は入ってきていないですが、特に海に近いという、先ほどもご心配がございましたけれども、普通の使い方と違う使い方を想定した時に何を想定して必要なかというのは、一度少し確認しておいた方がいいのではないかと思います。

○倉田委員長

今も色々ご意見が出ているのですが、おそらく計画段階では、メインホールを可動席にするかどうかというのは少し前提条件として決めてもいいのではないかなと思います。

ただ、私自身がこれまで市民参加でホールのことを議論したりしている中で、やはり固定席になってしまうとできないことというのは結構あるというのも確かで、同時に、固定席にするとやはり確実に稼働率は低くなるというような気がします。

ただその場合も、固定席もどのレベルの固定席にするか、非常に簡単に席を移動するということができれば、意外と平土間にしたり、席をしっかり設けて鑑賞したりと両方切り換えができます。

移動自体がものすごく大変なシステムだと、それはもう固定席のままですと使われてしまうということにもなると思います。

一つの例として、平土間にしておいたらいいかなという結論に至った、私の今までの経験で言うと、市民が入っている議論する場にダンスのグループの方たちがいました。社交ダンスなどの方たちですが、ぜひここでやりたいというような話で、その時に平土間の方がいいという話になったということがありました。

それだけではないのですが、他にもやはり平土間だったらこんな使い方もできるということが出てきています。

事例で出していたいただいた茅野市民館でも、プロレスをやったりしています。

プロレスは体育館でやればいいという話もちろんあり、ホールでやる必要はないのですが、ただ、色々な展示などの機能で使えることもあります。

そういう意味では、これはあくまでも、私はそちらに誘導しようとしているわけではないですが、木更津市ではこういう使い方をしたいということが、もう少し出てくると、その辺りが絞られるのではないかなという気がしますので、そういう議論を少しできたらなと思っています。

○土居委員

災害時の避難所としての機能は付加しないつもりでいます。

一時避難場所としての機能は当然必要だと思います、広い施設です。

この場所は、海拔 2.7m で、想定されている最大の津波が 3.5m です。

80cm 嵩上げすればいいということで、庁舎を作るときに 80cm から 1m の嵩上げをするという形でした。

ただ、人の頭を超えるような津波は、東京湾の中では来ないと思われまので、避難所に動いていただくための一時避難場所というような施設の使い方になると思います。

以前、固定席と可動席のコストの比較が出ていたかと思いますが、倍ぐらいのコストでしょうか。

そのコストというのは、結構大きくて、どうしても平土間で広い空間を使いたいということであれば、先ほど委員長おっしゃられた通り、体育館でもいいのではないかともありますし、その辺少し皆さんから意見をいただければと思います。

○倉田委員長

我々もコストを考える側なので、実際に市民サイドでどういうニーズがあるというのをちょっと知りたいという気持ちはあります。

○土居委員

ワークショップの中でありましたか。

○シアターワークショップ

その辺色々な意見が出まして、今回、施設ごとの利用の仕方をお示しし、集約するとこういう感じだったということになっております。

いただいた意見を元に我々の方で整理したのですが、このメインホールを文化団体が色々な活動ができるようにというのは、ワークショップの結果を踏まえたものであり、さらにもっと絞っていくことは、ちょっと難しいかなという気がします。

○倉田委員長

いずれにしても、そのあたりは少し、次回ある程度計画をまとめるという意味では、少し議論が必要かと思えます。

それでは、他に配置の議論がまだ十分かどうかわかりませんので、少しご意見いただければと思います。どれがいいということではなく、この配置を見ていただきながら、もう少しこういうことに配慮した方がいいのではないかとということなどお願いします。

○地曳委員

木更津の地域性としては、来場に乗用車を使ってくる方が非常に多いところがありますが、今回示された配置案の駐車場の台数が概ね分かるようでしたら教えていただきたいと思えます。

○シアターワークショップ

本当に粗々なのですが、大体 140~150 台ぐらいになると思えます。

図にグレーで書いてある部分で、縦横の長さからそのぐらいというふうに見ています。

○地曳委員

その倍ぐらいあった方が、木更津市の状況から考えると、よろしいのではないかと感じております。

○倉田委員長

木更津で歩いて行けるという距離自体がちょっとわからないのですが、その範囲内にある程度の規模の駐車場というのはあるのですか。

というのは、私は町の中での広域的な駐車場の計画、アリーナの計画などがある程度議論しなければいけない立場にいて、最大のピーク時に合わせるととんでもない数になってしまいます。

それを使っていないときはどうなるかという、本当に殺風景な広大なスペースとなってしまう、ある意味で環境的にも台無しになっているというケースもあります。

なので、今回の市民会館の駐車場の近くに別の駐車場があれば、それをうまく共用しながら使うということが非常に大事ではないかという気もして、ちょっとお伺いしたいのですが。

例えば、近くにウェルネスゾーンがありますが、ここにも駐車場はあるのでしょうか。

○土居委員

駐車場は多層にすれば済む話で、お金はかかりますが、鉄骨で2階、3階建てにすればいいのかなと思います。

建築基準法を満たしているかは分からないのですが、そうすれば150台分の敷地に300台停められると思いますので、あまり広い駐車場はもったいないという気がします。

○倉田委員長

市場の再整備がありますが、その市場の来客用の駐車場なんかも使えるのではと思いますので、駐車場の計画としては、利用の側で少し工夫することで、あまり大きくしない方がいいのではないかなというのが、私のこれまでの経験です。

○渡部委員

アプローチからの景観の「○」「×」の考え方なのですが、配置が6パターンあり、どれも歩行者、来館者の動線はほぼ同じような感じなのですが、これはどういう形で「○」「×」を付けられたのでしょうか。

○シアターワークショップ

これは、既存の車庫を残すか残さないかで変わっています。

駅の方から来たときに、北側にあるこのグレーの部分が車庫なのですが、それがその全景として入ってくるとあまり望ましくないのではないかということで、その既存の車庫が残っているパターンについては「×」を付けています。

○石村委員

先ほどの駐車場の話ですが、広い駐車場はあまり要らないのではないかということでしたが、私はさっき重ね使いという話がすごくすてきだなと思いました。

例えば君津市民文化ホールは、多分400台ぐらいの駐車場があります。

その駐車場の広さは、やはりそこでキャンプをやったり、イベントをやったり、色々な使い方ができます。ここは海の近くですし、そこで何かイベントなどもできるので、ある程度の広さがあってもいいのではないかと考えています。遠くに車を止めて歩いてくるということもあるとは思いますが、地域性から考えると、できれば、近いところに車を置きたいという、なにかそういう市民の感覚があると思います。確かに車を置いて、歩いて色々なことを楽しみながら来るとするのもあるとは思いますが。

○土居委員

少し話は変わりますが、この広場ではどういうことを想定しているのでしょうか。

○シアターワークショップ

色々なイベントができることを想定しています。

おそらく広場のありようによっては、車も入り、その中で緑もある程度見えるということもあると思います。ただ、今回は緑のスペースをイメージした色分けはしていますが、駐車場に関しては、色々な作り方はあるのかなと個人的には思っています。

○古橋委員

この車庫を残す、残さないというのは、何か基準というか、条件というのでしょうか。

○土居委員

邪魔だというご意見をいただければどうにかします。

○倉田委員長

実際、ここに市民会館ができたとしても、車庫としての機能は残すという意味なのでしょうか。

○土居委員

左の点線の2階建ての1階が書庫になっている所ですが、個人的にはそちらを残して、この右側にある車庫を無くしたいと思っていますが、それはまたご意見をいただきながら考えたいと思います。

○倉田委員長

車庫がどういうものかちょっとわかりませんが、例えば、車庫として継続して使うということじゃない代わりに、これを残すとすれば、何らかの用途でそこを使わないともったいないと思います。

車庫が現在どういうものかよくわからないのですが、例えば、この市民会館の機能にもあるかもしれないですが、アートやスタジオ的な使い方はできたりします。

ですので、そこも残すということであれば、それを使うということがなく、ただ建物だけ残すというのでは、ちょっと意味がないのかなと思います。

○土居委員

残せるような代物ではないと思います。

ですので、これはあまり考えなくていいと思います。

ただ、バスを停めたりなどの必要なものを、この新しく造る施設の中で一つ入れるとか、あと備蓄倉庫も邪魔ではないと思いますが、備蓄倉庫は市内全域で使うブルーシートや発電機などを入れておくところで、そういったものが、新しい施設のちょっとした部分に付加されていけば、その部分がプラスになるのは問題ないと思いますので、そういう位置付けをしていただければ、既存の物は全部壊してもいいと思います。

○古橋委員

こういうものこそ壊してもよいと、そう曖昧に書いていただければいいと思います。

あと、広場なのですが、実はここで例に出ている施設併設型広場というサントミュージゼですが、これは結構スケール感が違います。広場があるということは魅力ですが、広ければいいものではありません。

逆に周りの建物とどういう関係にあるからここが生きるという話になると思います。

なので、やはり、あまりそこら辺は今ここでこだわる必要はなくて、逆に設計時にこの広場はどうふうに使われるということを提案していただくことが大事なのだと思います。

ですので、ここにある「◎」や「△」とかいうのも、立場見方によっては、「△」が「○」にもなるし、「×」にもなる可能性はあるので、あまりこだわる必要もないのかなというふうに思っています。

○倉田委員長

おそらく広場を使った文化イベントというのは、結構あり得ると思います。

建物側と一緒に何かやるということも可能になりますので、そういう意味では、ここに広場ができると、恵まれた敷地になると思います。そのためには、この広場もただ残った場所に緑を生み出したというのではなく、もう少し使いたくなるような広場、施設と一体となった広場の作り方をしていたといいかなと思います。

ある意味では広場と書いてあるのですが、公園に近いですね。

個人的には、この広場が水辺の広いオープンスペースと繋がって行き、最終的に、周辺もある程度整備されるとウォーターフロントが非常に魅力的になってくるのではないかなって気がしています。

そうすれば、この広場を考えると、この施設に附属する広場という捉え方だけではなくて、もう少し広域的に、周辺のオープンスペースと連続したオープンスペースの一部となるような捉え方もできると思います。

そうするとまた、ますます色々な可能性が出てくるような気がしますので、今の時点で、広場をこういう使い方したいということがあれば、この計画段階で少しあげていてもいいのではないかと思います。

具体的に言うと、木更津でやっているお祭りの一部の舞台になり得るとか、そういう話があってもいいと思いますし、屋外でのコンサートだってあり得るのかなと思います。

○地曳委員

確かに今までの市民会館でも朝市をやったり、市民会館まつりを年1回実施したりということで、駐車場や緑地などを活用したイベントは実施されていたはずですので、オープンスペースで、今後もそういった催しは継続して実施していただきたいなというふうに思います。

○倉田委員長

では、次回議論しなければいけないことというのが少し整理されたように思いますので、できれば次回議論の最終目標といいますか、なにかそういうものをちょっと整理していただいて、次回その辺りの議論ができればというふうに思っております。

○伊藤委員

次回に向けてお願いしたいのは、ワークショップ等々でこういった使い方をしたいということが、大きく分けて、鑑賞型、自分たちでやるもの、それから平土間じゃなきゃできないものなど出てきましたが、それを少し幾つかのパターンに分けて整理してもらって議論しやすいのかなと思います。

どうしても市民の方たちが何を求めているかというのが、こちらの方はわかりませんので、こういったデータを基にすれば、中規模ホールのメインホールの使い方というものはいったい形がいいのではないかとかが明確になると思います。

是非、少し手間かもしれませんが、市民の声を大きくいくつかのパターンに分類していただくとうれしいなと思います。

○倉田委員長

それと、図書コーナーの記述がありますが、おそらくこれまで私が関わったケースで言うと、図書コーナーはどの程度のものを想定するかによって、かなり影響を与える部分でもあったりすると思います。

そういう意味で、本当に図書機能なんて言ってもこの程度のものでいいということであれば、それ程ではないと思いますが、かなりちゃんとした図書コーナー、ある程度分館とは言えないまでもそれに近いような形で図書を揃えるようなものを考えるかによっても違ってくるような気がしています。

これも前に少しお話したかもしれませんが、これまでいろいろ議論した施設の中でも、当初図書コーナーというのは無かったのですが、日常的に市民が気楽に足を運びやすい機能ということで、年齢を問わず、図書館が一番そういう役割を果たしているのではないかと、それをとにかく中に入れましょうという議論をしたこともあります。

ホールだけの議論をしているとあまり関係ないのですが、やはりその交流機能ということ意識した時に、そういう図書コーナーが大事だというような議論に至ったケースもあるので、それをどの程度のものに想定するかということも含めて、その辺も少し、特に地元の議論としてはどんな様子かなということもぜひ少し教えていただければなという気がします。

○倉田委員長

よろしいでしょうか。

それでは今日の議事は、以上で終了したいというふうに思います。

それでは事務局の方に、お渡ししたいと思いますのでよろしく申し上げます。

○事務局

はい。

皆様長時間のご審議ありがとうございました。

最後になりますが、その他といたしまして今後の委員会スケジュールについて変更がございますので、ご説明したいと思います。

お配りさせていただいた変更後のスケジュール表をご覧ください。

変更前の今年度スケジュール表では、次回、基本計画の素案を出し、それを策定した上でパブコメを12月20日ぐらいからかけるという計画にしておりましたが、ちょっとそれでは基本計画案を検討する時間がないのではないかとということで、今回、第7回委員会を1月10日に追加させていただいております。

また、パブコメにつきましても、当初、答申を出していただく前の12月半ばから行う予定でしたが、今回は答申をいただいた後にパブコメにかけるという形にさせていただいております。

何かご質問ございますか。

(特になし)

では、次回の第6回検討委員会は、11月28日14時からの開催を予定しております。開催案内につきましては、後日送付させていただきますので、出席につきましてご配意の程よろしくお願いいたします。

それでは以上をもちまして、第5回木更津市民会館整備検討委員会を終了いたします。

上記会議録を証するため下記署名する。

令和元年11月28日

木更津市市民会館整備検討委員会委員長 倉田 直道